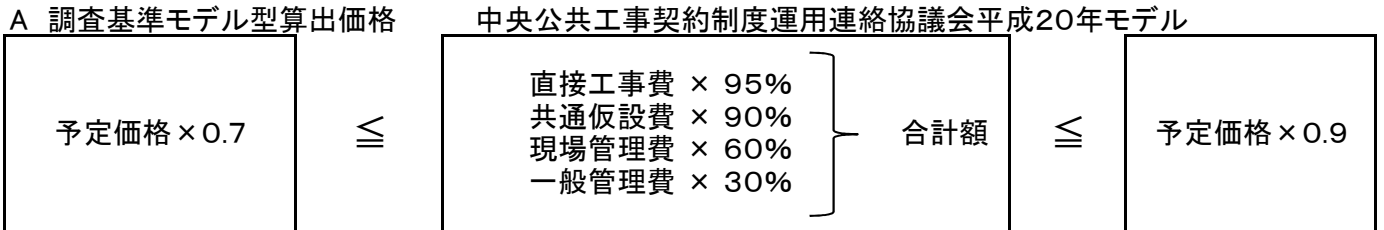


【調査基準価格の算定】

○AとBのどちらか低い方を調査基準価格とします。



B 調査基準変動型算出価格 平均価格 × 0.95

異常値の影響を避けるために、『予定価格以下の全ての平均値』±『標準偏差』の範囲外の入札価格(大きくばらついた価格)を算定対象から除外した平均値に0.95を乗じます。

(調査基準変動型算出価格の算定)

算定対象 = 「平均値(μ) ± 標準偏差(σ)」の範囲内に入札価格

$$\text{調査基準変動型算出価格} = \frac{\text{算定対象の入札価格の合計}}{\text{算定対象の入札者数}} \times 0.95$$

(標準偏差の算定)

標準偏差とは、統計学における「ばらつき具合、ぶれ幅」を表すものです。
 また、「平均値±標準偏差」の範囲は、「サンプルの平均値の信頼区間」と呼ばれています。

入札価格 = ×1, ×2, ×3, ×4.....×n(算定対象者数=n)

平均値 = $\sum x/n = \mu$ (ミュー)

$$\text{標準偏差} (\sigma) = \sqrt{\frac{(\times 1 - \mu)^2 + (\times 2 - \mu)^2 + (\times 3 - \mu)^2 + \dots + (\times n - \mu)^2}{n}}$$

算定例1

【 A モデル型算出価格 】

(単位：千円)

直接工事費	93,000	× 0.95 =	88,350	合計
共通仮設費	5,000	× 0.90 =	4,500	113,850
現場管理費	28,000	× 0.60 =	16,800	
一般管理費	14,000	× 0.30 =	4,200	A 算出価格 113,850
C 予定価格	140,000	× 0.90 =	126,000	
		× 0.70 =	98,000	
				A/C 0.81

【 B 変動型算出価格 】

No.	入札価格	標準偏差考慮	落札率
1	116,000		0.83
2	109,500	109,500	0.78
3	104,500	104,500	0.75
4	103,000	103,000	0.74
5	100,000	100,000	0.71
6	99,000	99,000	0.71
7	95,000		0.68
8	94,000		0.67

平均値	102,625
標準偏差	6,914

信頼区間 (平均値 ± 標準偏差)	109539	max
	95711	mini

信頼区間内の額の平均値	103200	× 0.95 =	B 算出価格 98,040
			B/C 0.70

A > B

調査基準価格

98,040

算定例2

【 A モデル型算出価格 】

(単位：千円)

直接工事費	93,000	× 0.95 =	88,350	合計
共通仮設費	5,000	× 0.90 =	4,500	113,850
現場管理費	28,000	× 0.60 =	16,800	
一般管理費	14,000	× 0.30 =	4,200	A 算出価格 113,850
C 予定価格	140,000	× 0.90 =	126,000	
		× 0.70 =	98,000	
				A/C 0.81

【 B 変動型算出価格 】

No.	入札価格	標準偏差考慮	落札率
1	127,500		0.83
2	125,000	125,000	0.78
3	124,000	124,000	0.75
4	121,000	121,000	0.74
5	120,000	120,000	0.71
6	118,000	118,000	0.71
7	115,000	115,000	0.68
8	110,000		0.67

平均値	120,062
標準偏差	5,329

信頼区間 (平均値 ± 標準偏差)	125,391	max
	114,733	mini

信頼区間内の額の平均値	120,500	× 0.95 =	B 算出価格 114,475
			B/C 0.82

B > A

調査基準価格

113,850